

# 2010年3月期決算説明会

## 2010.5.26

NIPPON YAKIN

日本冶金工業株式会社

---

## 1. 2010年3月期決算サマリー

取締役経理部長 久保田 尚志

## 2. 足元の状況と今年度の取り組み

代表取締役社長 杉森 一太

<参考> 主要データ(連結ベース)

## 2010年3月期決算のポイント

- ① 上半期は中国など新興国向け輸出の増加や自動車、家電産業向け需要の回復等からリーマンショック後の最悪期を脱出。下半期は円高進行や住宅及び建築関連産業の長引く不振などによる一般材需給の軟化を受け再び減産基調へ。
- ② 減産による固定費負担増加や原料コスト上昇に対応する製品販売価格改定の遅れなどにより黒字転換には至らず。
- ③ 新興国や資源国経済には引き続き底堅い成長が期待できること、原料価格上昇に対応した製品価格改定も着実に進んでいることなど期末から足元にかけて経営環境は改善の方向へ。

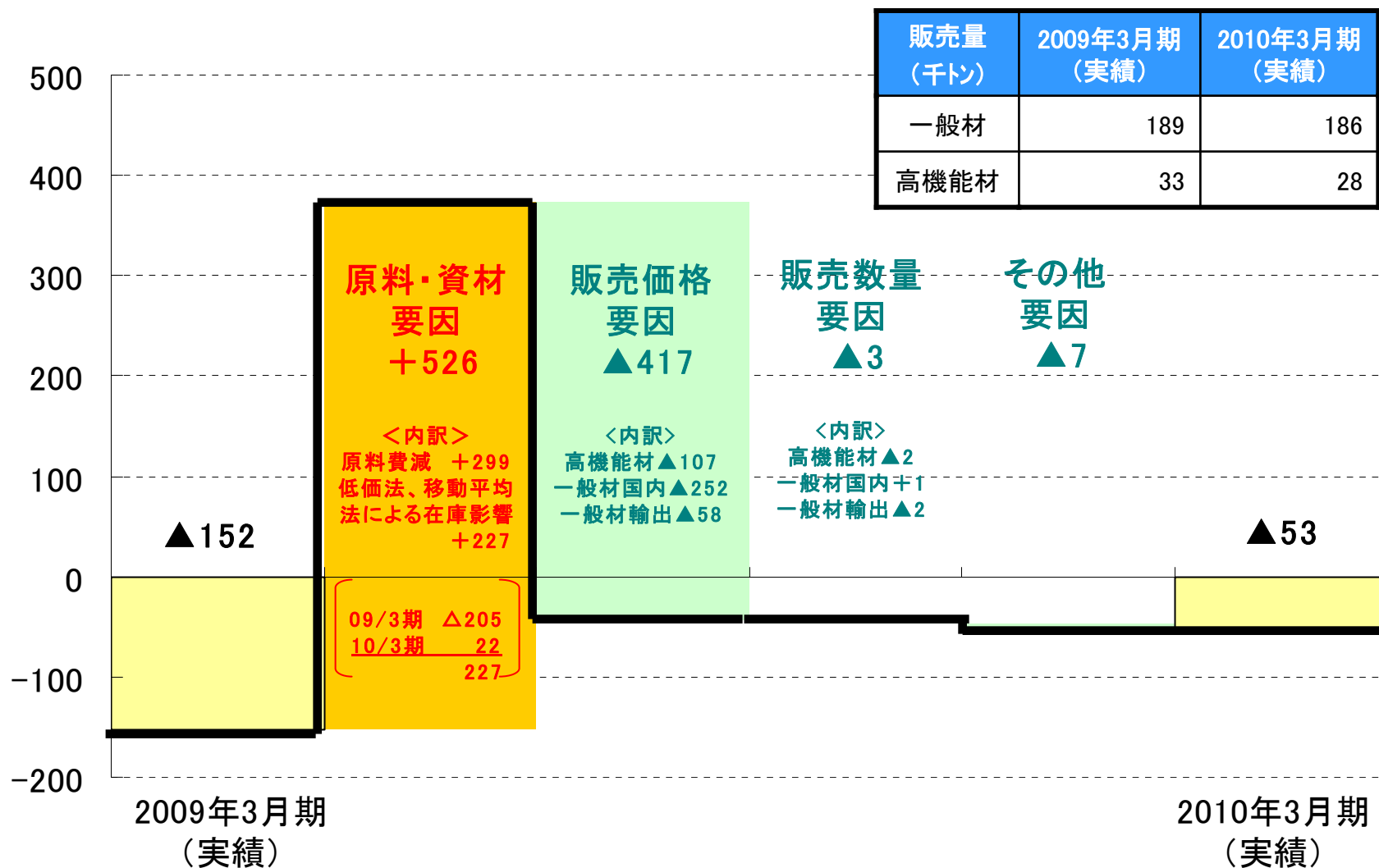
# 損益計算書 連結 概要

	2009年3月期 通期実績 (億円)	2010年3月期 通期実績 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)
売上高	1,637	973	▲ 663	▲ 40.5
営業利益	▲ 152	▲ 53	99	-
経常利益	▲ 164	▲ 66	98	-
当期純利益	▲ 113	▲ 126	▲ 13	-
ROA(%)	▲ 8.8	▲ 3.6		
自己資本比率(%)	37.2	30.4		
高機能材部門 売上高比率(%)	34.1	27.9		

(注)ROAは(営業利益+受取利息・受取配当金)／期初・期末平均総資産

(ご参考)ニッケルLME期中平均価格:2009年3月期7.48US\$/Lb、2010年3月期7.72US\$/Lb。

# 営業利益変動の要因分析(前期比較:億円)



# 貸借対照表 連結 概要

	2009年3月末 (億円)	2010年3月末 (億円)	前期比増減 (億円)	2009年3月末 構成比 (%)	2010年3月末 構成比 (%)
現金・預金	79	73	▲ 6	5.3	5.1
売掛債権	187	200	13	12.6	14.0
たな卸資産	248	259	11	16.7	18.1
その他流動資産	49	22	▲ 27	3.3	1.5
固定資産	926	874	▲ 52	62.2	61.1
<b>【資産合計】</b>	<b>1,489</b>	<b>1,429</b>	<b>▲ 59</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>
借入金・社債	582	599	17	39.1	41.9
その他負債	348	390	41	23.4	27.3
<b>【負債計】</b>	<b>930</b>	<b>989</b>	<b>59</b>	<b>62.5</b>	<b>69.2</b>
<b>【純資産計】</b>	<b>559</b>	<b>440</b>	<b>▲ 119</b>	<b>37.5</b>	<b>30.8</b>

# キャッシュフロー計算書 連結 概要

	2009年3月期 通期実績 (億円)	2010年3月期 通期実績 (億円)	前年比 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	116	▲ 10	▲ 126
税金等調整前当期純利益	▲ 185	▲ 99	87
減価償却費	54	57	3
売上債権の増加額(△)又は減少額	207	▲ 13	▲ 221
たな卸資産の増加額(△)又は減少額	252	▲ 11	▲ 263
仕入債務の増加額又は減少額(△)	▲ 102	14	116
法人税等の支払額	▲ 89	21	110
その他	▲ 21	21	42
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 53	▲ 27	26
有形・無形固定資産の取得による支出	▲ 50	▲ 26	25
その他	▲ 3	▲ 1	2
フリー・キャッシュフロー	63	▲ 37	▲ 100
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 32	28	60
長短借入金の純減少額(△)	▲ 17	17	34
その他	▲ 15	11	26
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	27	▲ 9	▲ 36

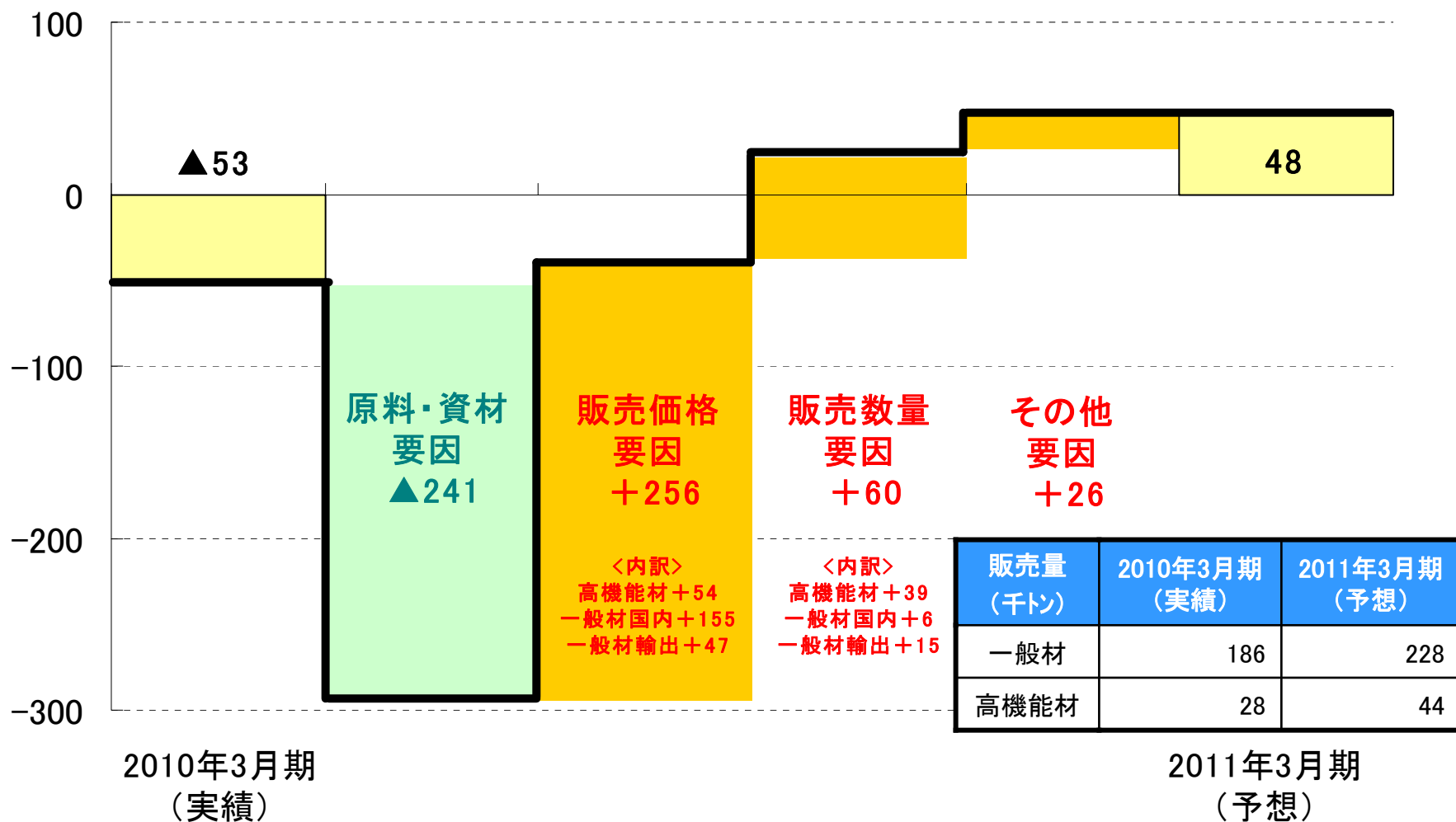
# 2011年3月期連結業績予想

	2010年3月期	2011年3月期		
	通期実績 (億円)	今回予想 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)
売上高	973	1,360	387	39.7
営業利益	▲ 53	48	101	—
経常利益	▲ 66	30	96	—
当期純利益	▲ 126	15	141	—

(前提)2011年3月期ニッケルLME期中平均価格：11.0 US\$/Lb、為替レート 90.0 円。



# 営業利益変動の要因分析(前期比較:億円)



## 本日のアジェンダ

### 1. 2010年3月期決算サマリー

取締役経理部長 久保田 尚志

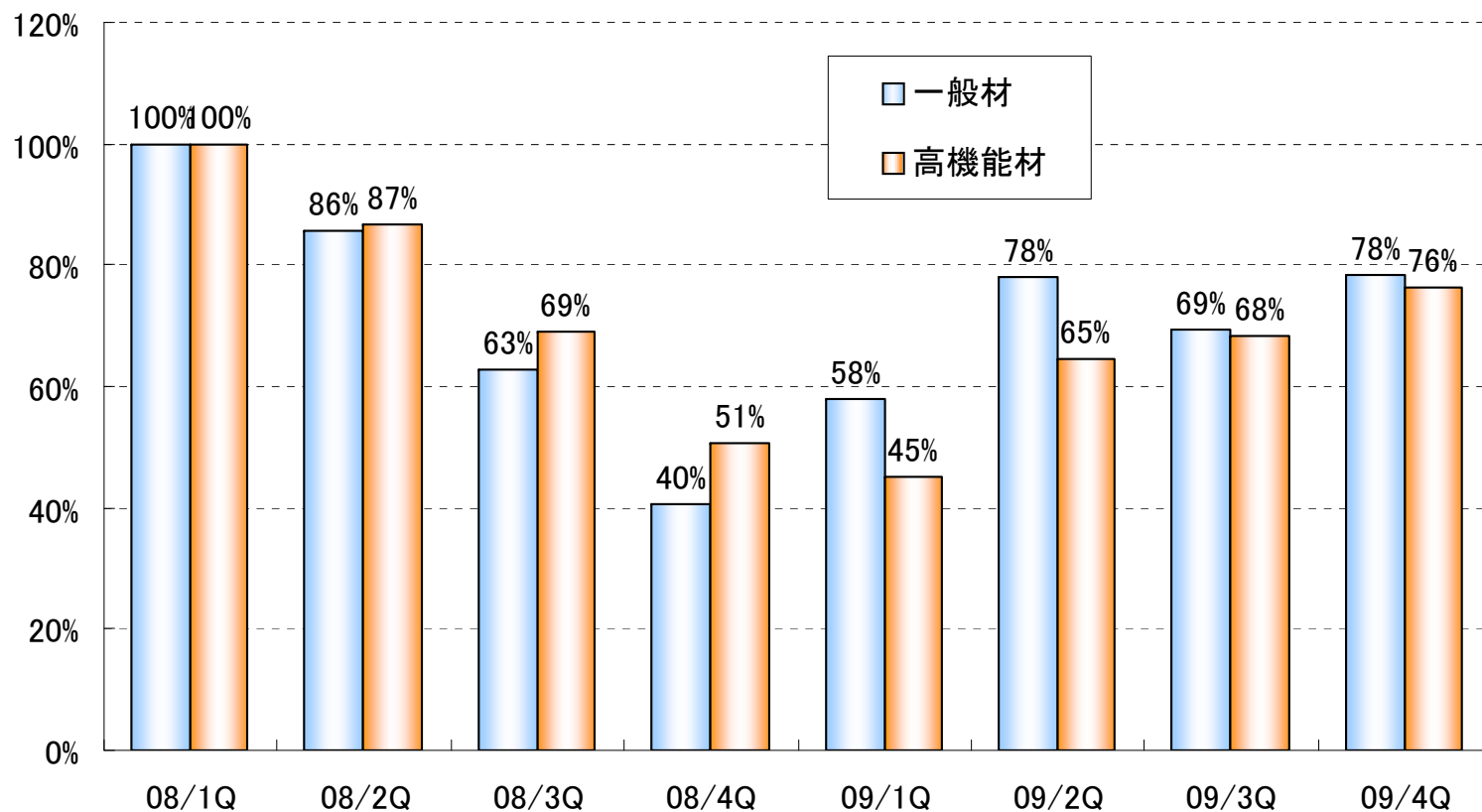
### 2. 足元の状況と今年度の取り組み

代表取締役社長 杉森 一太

＜参考＞主要データ(連結ベース)

## 販売量 《ステンレス一般材及び高機能材》

- 一般材は2009年度4Qに再上昇、高機能材は2009年度第1Qをボトムに着実な回復基調



(注)いずれも2008年度第1四半期=100%で表示。

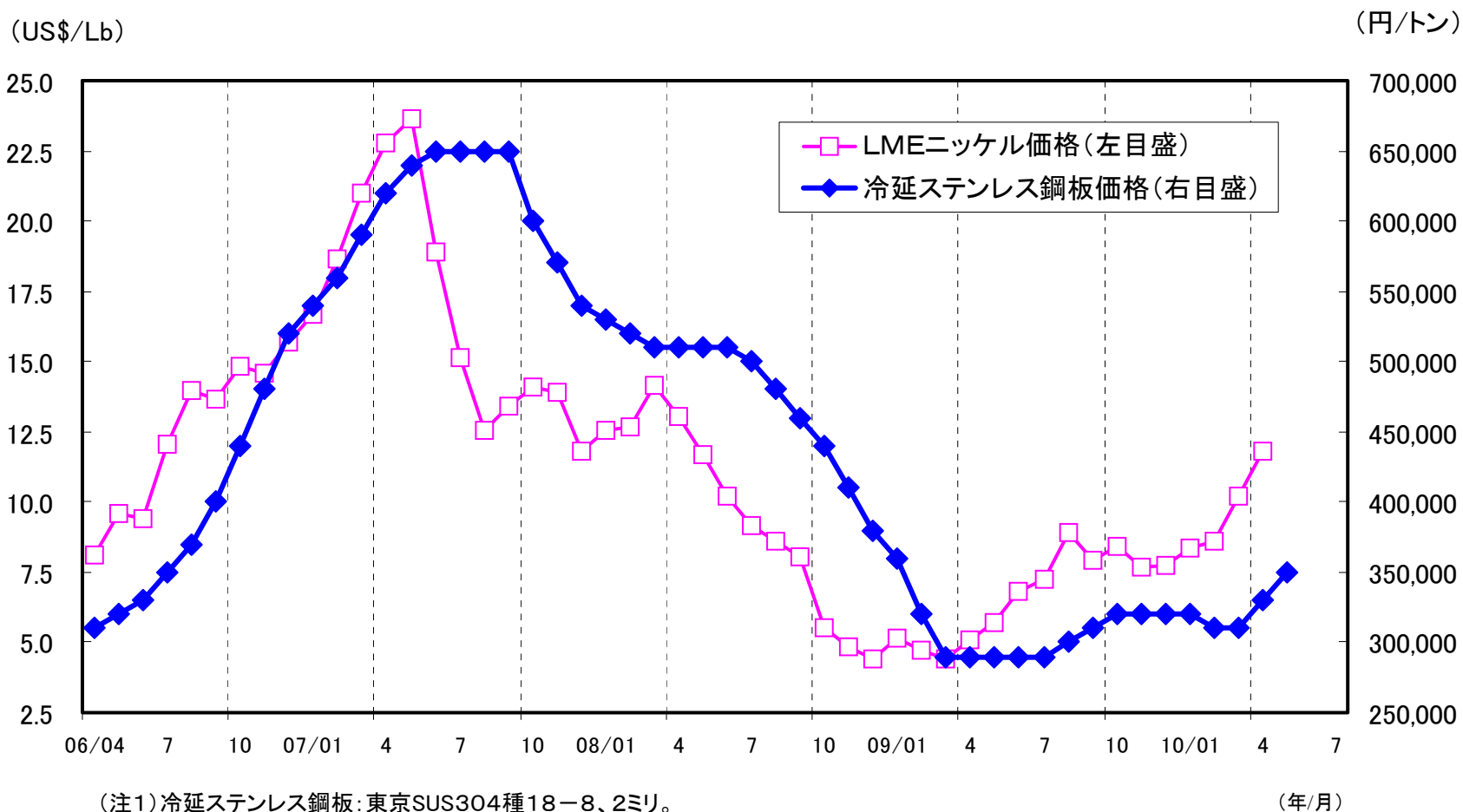
(年度四半期)

# ステンレス一般材の状況

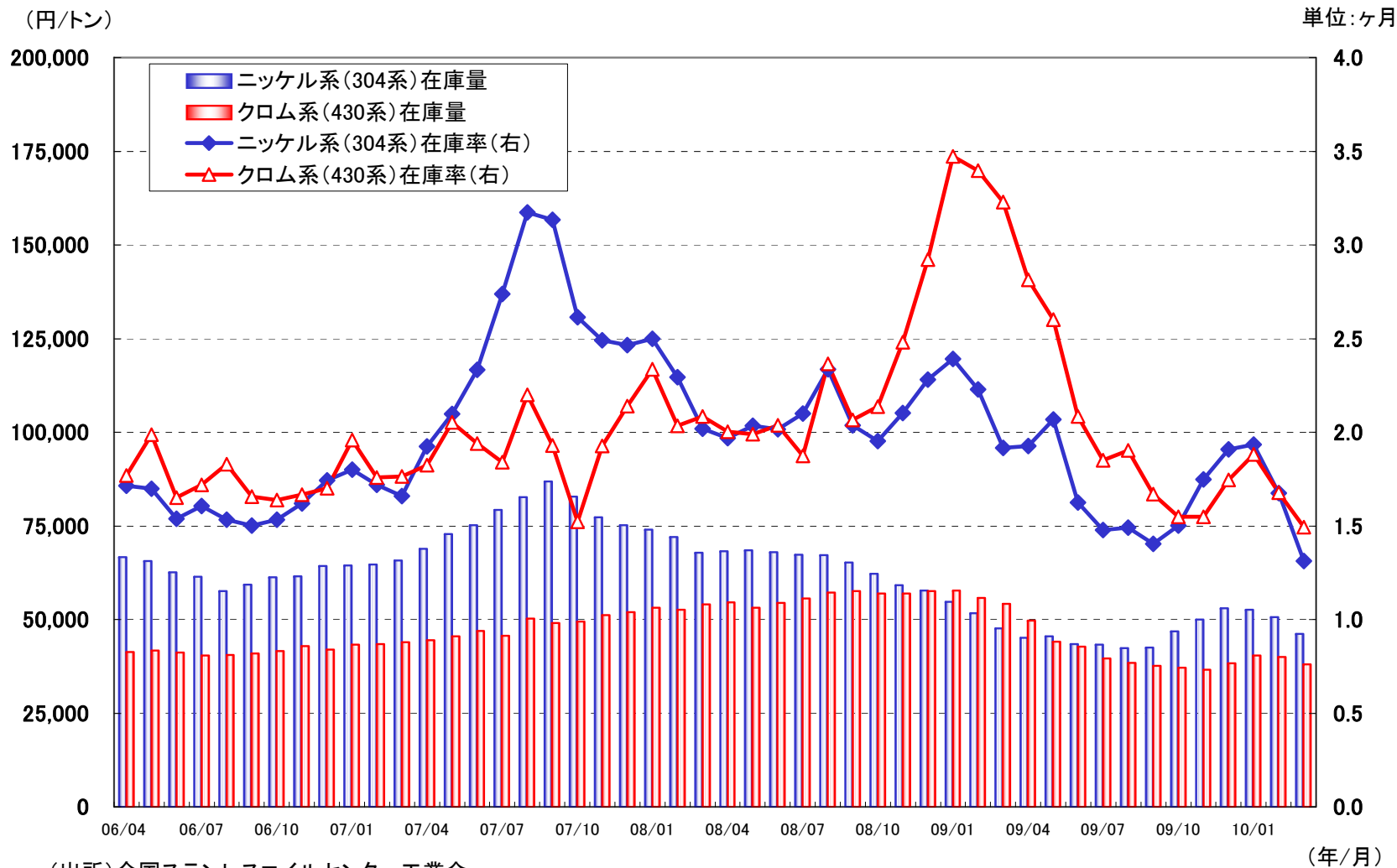
	(1)国内マーケット	(2)海外マーケット
前年度下期	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 二番底懸念から需要は再び減退したものの、低い在庫水準やニッケル価格の上伸をうけて年度末に向けて回復の兆し</li> <li>✓ ただし、幅広い裾野を持つ建築・設備投資関連は年度を通じて不振</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 景気先行き不透明感から価格水準は一時的に低下したが、新年入り後のニッケル原料価格上昇を受けステンレス製品価格が上方改定され、需要も急速に拡大</li> </ul>
今年度初	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 市中在庫調整完了とニッケル価格上昇などから、引き合いが前年度末より一段と活発化</li> <li>✓ 半導体関連など一部業種でも需要顕在化の兆し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中国・インドなど新興国の需要は新年入り後の好調を維持</li> </ul>
今年度見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 多分野にわたり堅調な海外需要の波及効果が、日本国内のステンレス需要にも好影響を及ぼす見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 海外、特に中国を核とするアジア市場の拡大がけん引役と成る見込み</li> </ul>

# ニッケル・ステンレス価格の推移(月次)

➤ニッケル価格は2010年3月から明確に再上昇、ステンレス価格も底打ち

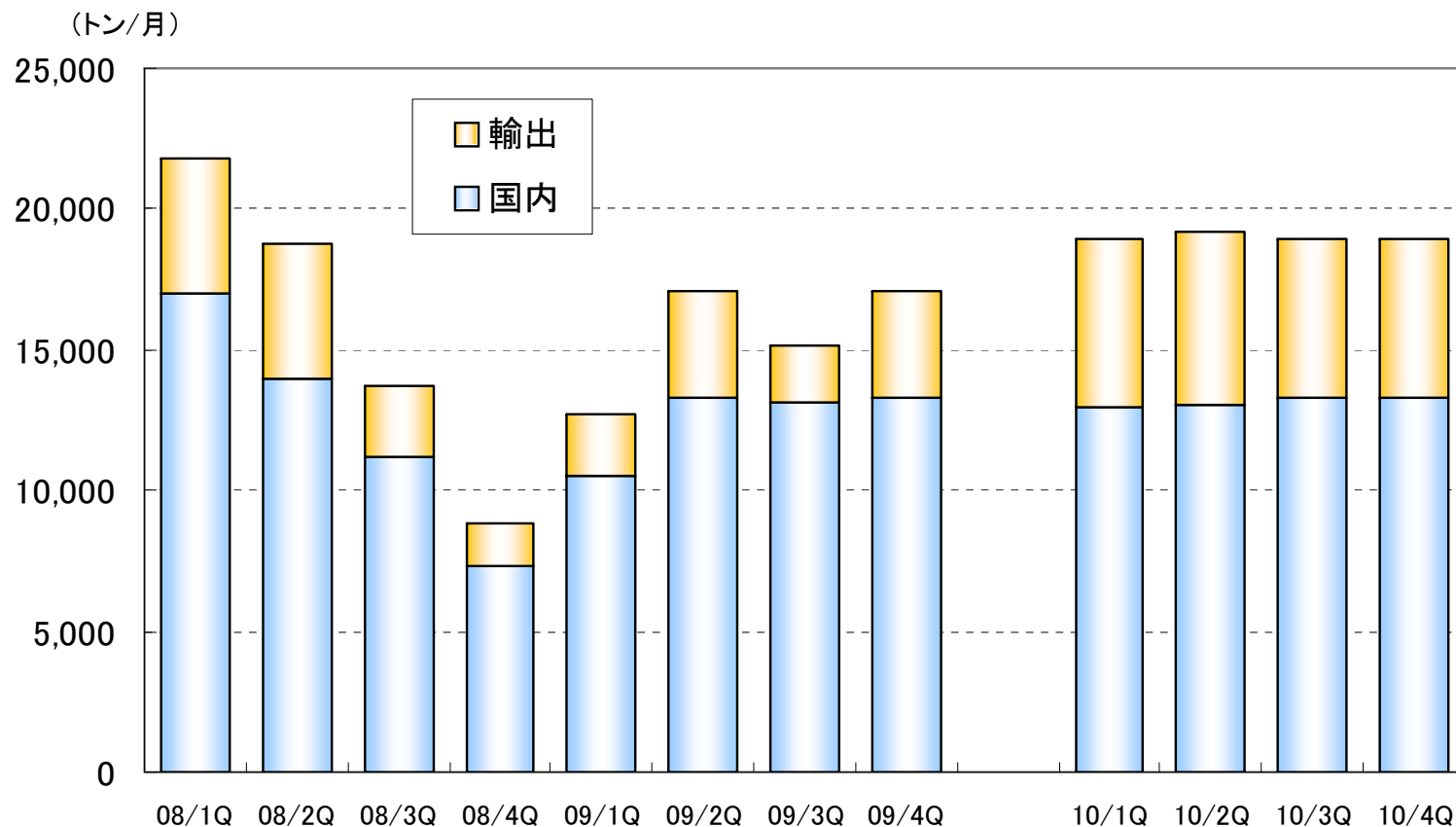


# 汎用ステンレス(ニッケル系・クロム系)在庫の推移(月次)



## 販売量実績及び見込み《ステンレス一般材》

- 2009年度3Qに足踏みしたものの足元は急回復、2010年度は足元からほぼ横ばいを想定



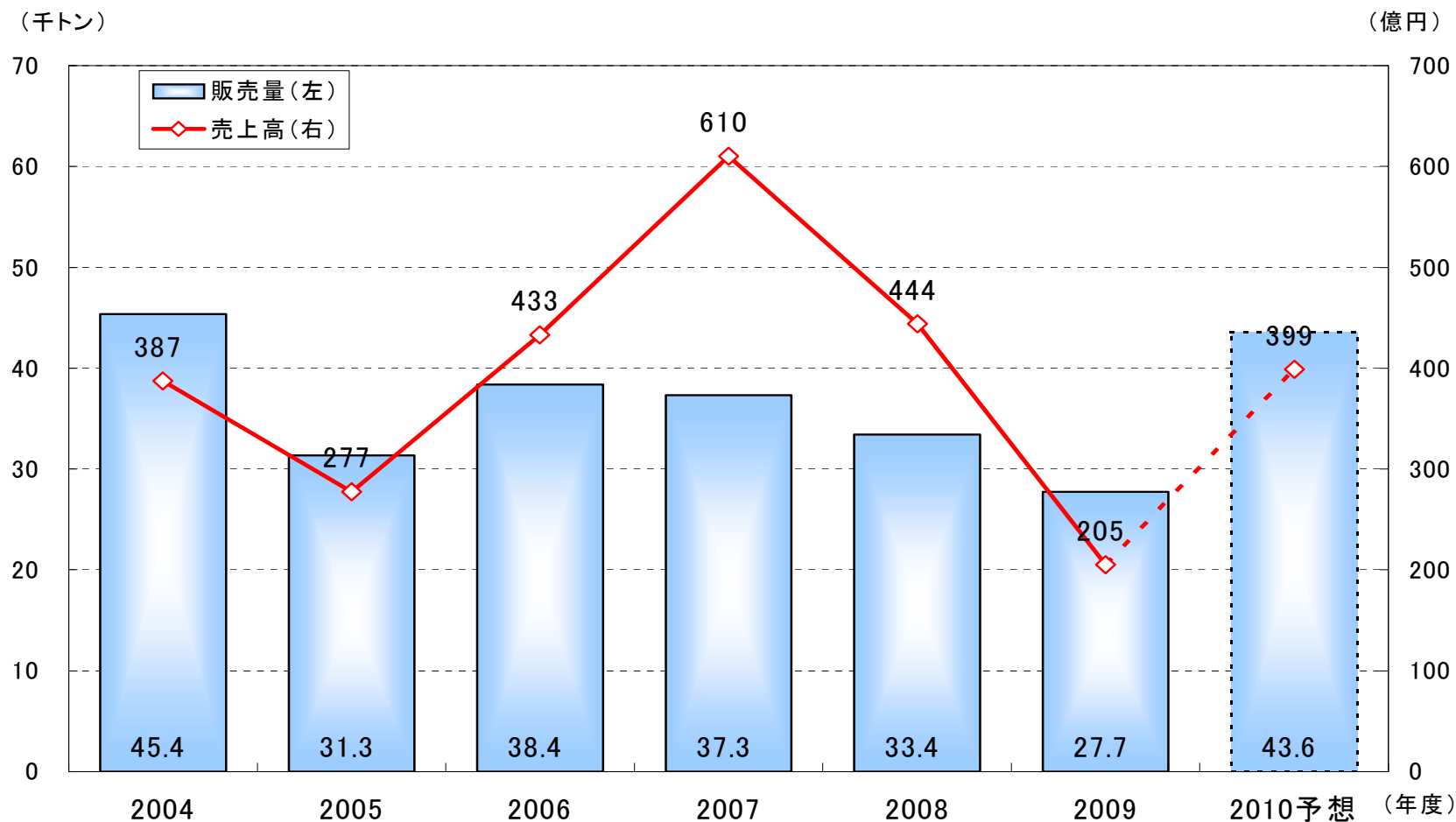
# 高機能材部門の状況

	(1)国内マーケット	(2)海外マーケット
前年度下期	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ リーマンショックの影響から徐々に回復</li> <li>✓ 自動車関連が堅調であったほか、輸出向けの化学品・航空機関連にも動意</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国内に比べて顕著な回復ペース</li> <li>✓ アジア地域は中国・韓国を筆頭に、各種案件、安定需要家向けも増量傾向</li> <li>✓ 欧州向けは、事務所設立の効果もあり、案件受注、長期契約顧客向け拡販ともに予想を上回る</li> </ul>
今年度初	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 動きが途絶えていた全ての顧客からの受注が復活したが、数量ベースではまだ完全回復には至っていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 引き合いは、中国と韓国(最終仕向け地は中東)で盛り上がり、アセアン、大洋州、インドからも増加傾向</li> </ul>
今年度見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 間接輸出頼みながら、エネルギーや原子力発電関連など期待できる大型案件が増加の見込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ユーロ安の影響から欧州向けに不透明感が残るものの、新興国や米国向けは好調</li> <li>✓ 今年度の輸出販売量はピーク時の数量を更新する見込み</li> </ul>



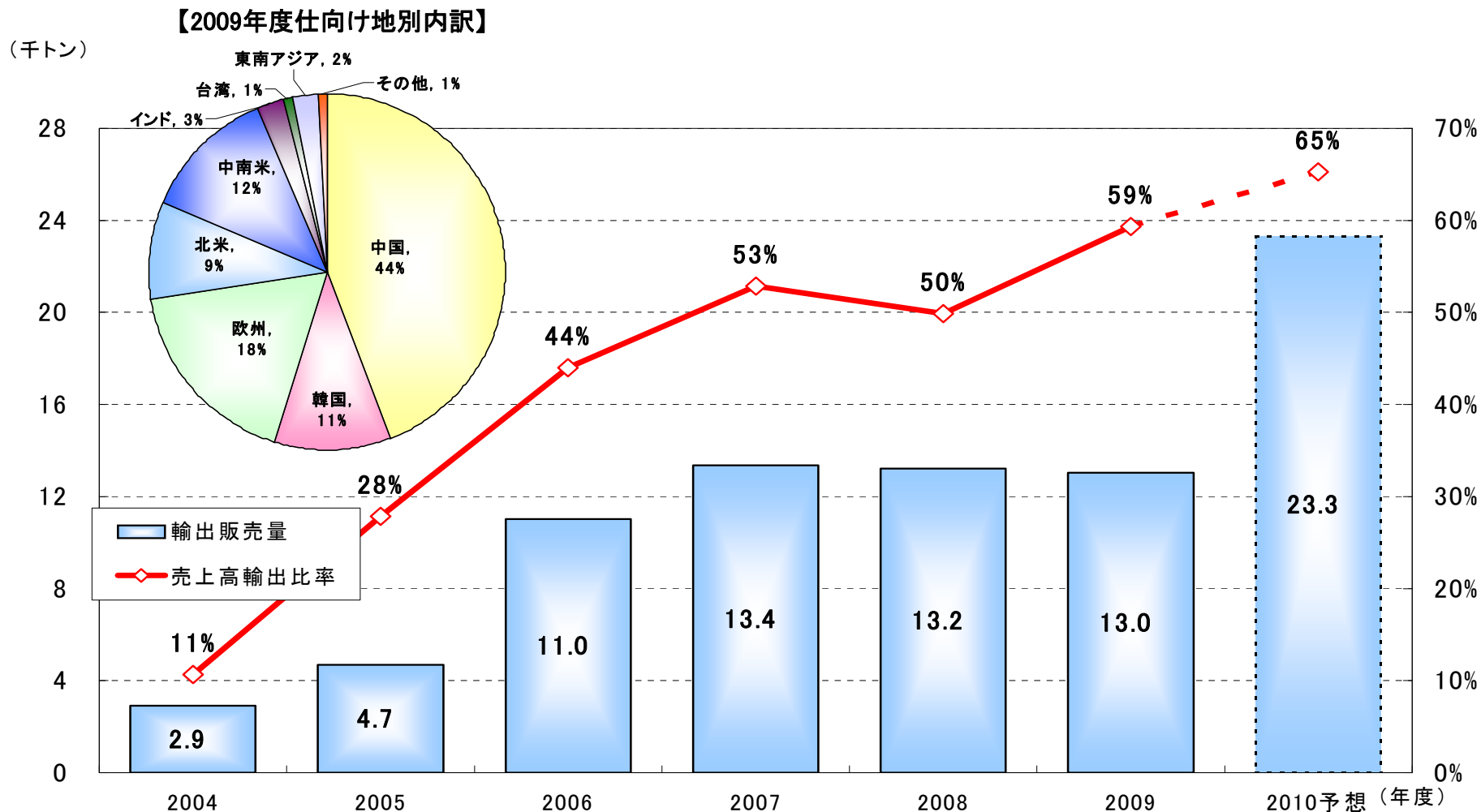
# 販売量及び売上高 《高機能材部門合計》

➤ 販売量、売上高ともに前期に続いて減少も、今期は回復へ



# 輸出の販売量及び売上高構成比 《高機能材合計》

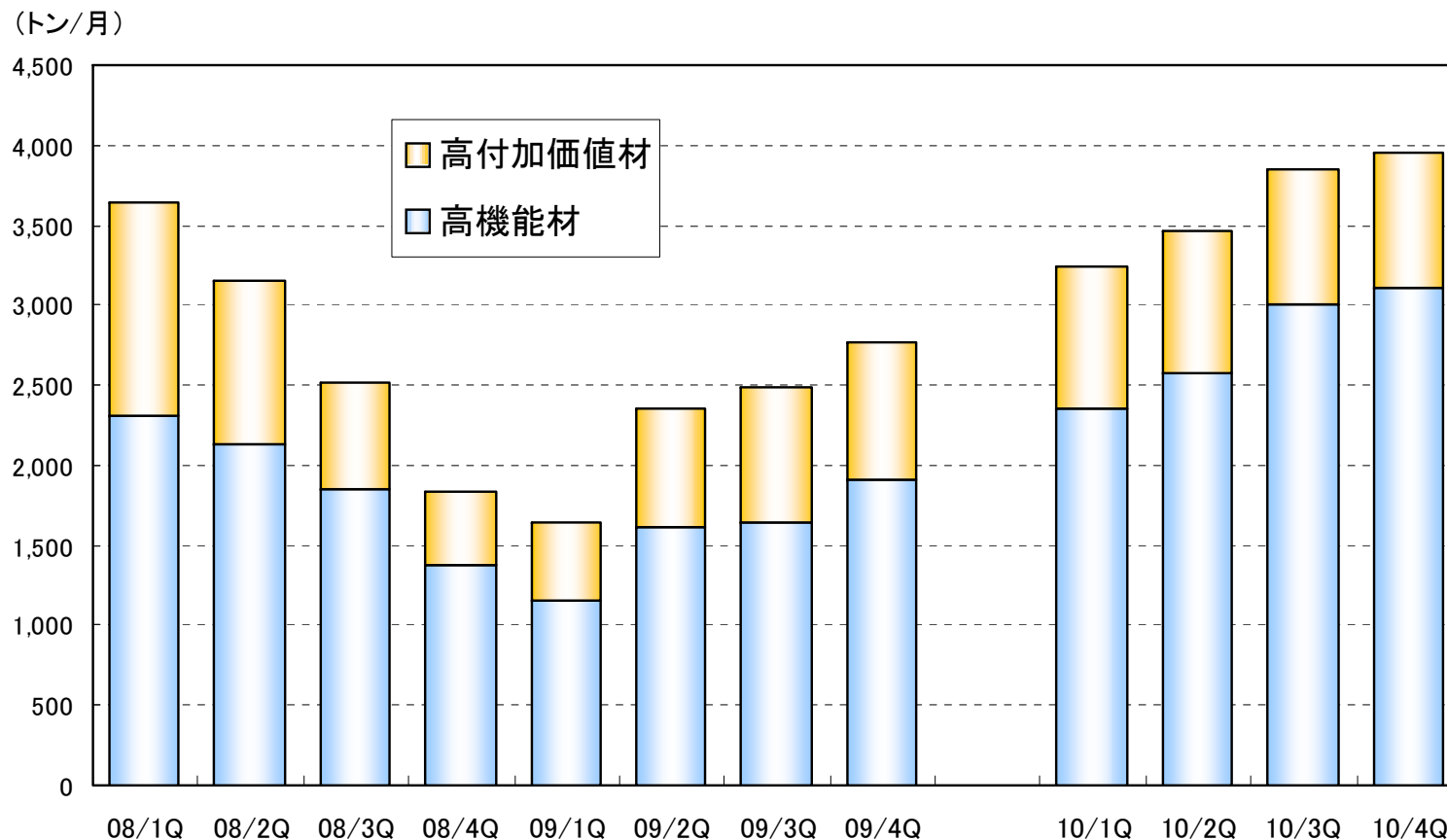
➤ 輸出販売量は微減ながら、売上高輸出比率は6割に迫る





# 販売量実績及び見込み《高機能材部門合計》

▶ 2009年度2Q以降着実に増加、2010年度も増加基調持続を想定



## 今後の取組み:コストダウン

項目		施策
原料費	川崎製造所	高機能材生産効率の改善 原材料使用方法の改善
	大江山製造所	原料収率及び操業技術の改善
	資材部門	調達先の見直し
その他変動費		電力使用量抑制など
固定費		産業廃棄物処理費用の削減 減価償却費内での選別投資
一般管理費		人件費・経費の削減

# 今後の取組み:高機能材販売施策

## ▶海外市場への積極展開

### (1)安定顧客拡大

海外パイプメーカーの安定顧客化、年契約顧客増、リローラー開拓

### (2)分野別重点施策

①オイル・ガス ②環境 ③水 ④原子力 等の分野別に取り組み

### (3)地域別施策

中国、欧州、北米、韓国、インド・中東、台湾の地域別施策実施

# 高機能材受注：獲得した大型案件のご紹介

分類	鋼種名	国名	数量(トン)	用途	納入時期
≪石油&ガス≫ 金融危機の影響で凍結していた案件が再開					
耐食オーステナイトステンレス鋼	NAS 185N	韓国	60	パイプ	2010年5月
高Ni耐食合金	NAS 825	韓国	70	海上石油プラント	2010年2月
耐食二相ステンレス鋼	NAS 329J3L	韓国	120	フレキシブルチューブ等	2010年4月
	NAS 329J3L	フランス	360	石油・化学プラントなど広範な分野の熱交換器用など	2010年4～7月
≪省エネルギー≫ 次世代航空機生産開始					
熱膨張制御材	NAS 36	米国	300	炭素繊維成型用金型	2010年3～5月
	NAS 36	日本	320	炭素繊維成型用金型	2010年5～6月
≪苛性ソーダ製造プラント≫ 新興国での需要回復により受注増加					
苛性ソーダ用材	NAS NI201	日本	180	電極用	2010年3～6月
	NAS NI201	中国	170	電極用	2010年3～7月

# 高機能材受注：獲得した大型案件のご紹介

《海上石油プラント》



《次世代航空機》



《苛性ソーダ製造プラント》



《炭素繊維成型用金型》





# 高機能材案件紹介(1) コンクリート管の結合部分材

- ✓ 製品名 : 高耐食スーパー二相ステンレス鋼(商品名NAS74N)
- ✓ 受注先 : コンクリート管を製造するドイツ系エンジニアリング会社
- ✓ 用途 : 海水淡水化プラント向けコンクリート管の結合部分材



2.0~2.5m

結合部分

・NAS 74N 8.0~30.0mm

- ・海水淡水化プラントや都市下水道などの地下トンネルのうち、直径5m以下のものはコスト削減のためコンクリート管を地下に埋設する場合があります。
- ・このコンクリート管の結合部分には腐食を防ぐためにステンレス鋼(SUS316等)が使用される例があります。
- ・中東やオーストラリアの沿岸部で海水による腐食が心配される際には、さらに耐海水腐食性に優れた二相ステンレス鋼やスーパー二相ステンレス鋼の使用を施主が特別に指定するケースが増えています。

## 高機能材案件紹介(2) バイメタル



- ✓ 製品名 : 熱膨張制御材(商品名NAS36、NAS22-3、NAS206MN)
- ✓ 受注先 : 米国、欧州、中国及び国内の主要クラッド鋼メーカー
- ✓ 用途 :
  - ・温度調整器(コーヒーメーカー、トースターなど)
  - ・蛍光灯用グロー式点灯管
  - ・ノーヒューズブレーカー
  - ・自動車関連(オートチョーク、シガーライターなど)

・バイメタルとは熱膨張率の異なる2種類の金属を接合したもので、温度の変化に応じて湾曲する特性を持っています。  
・当社ではコア技術である高Ni合金の高度な精錬技術を活かし、高精度に熱膨張率をコントロールした素材を供給しています。

## 配当について

### ▶ 2010年3月期の配当

普通株式1株当たり・・・配当なし

### ▶ 2011年3月期の配当予想額

経営環境は依然厳しく先行きへの不透明感があることから現時点では未定としております。今後の業績を見極め、開示可能になった時点で速やかにお知らせ致します。

## 本日のアジェンダ

### 1. 2010年3月期決算サマリー

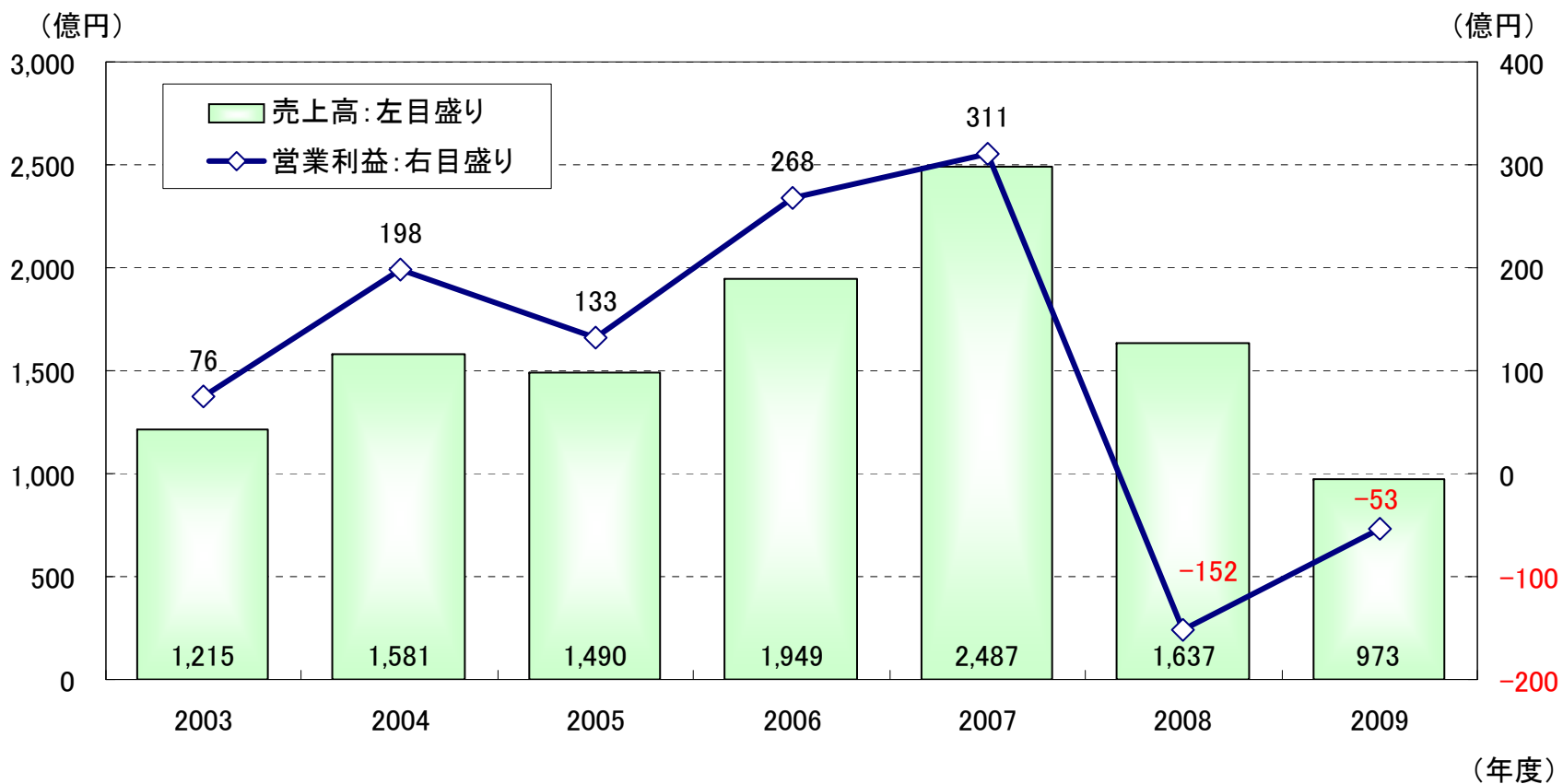
取締役経理部長 久保田 尚志

### 2. 足元の状況と今年度の取り組み

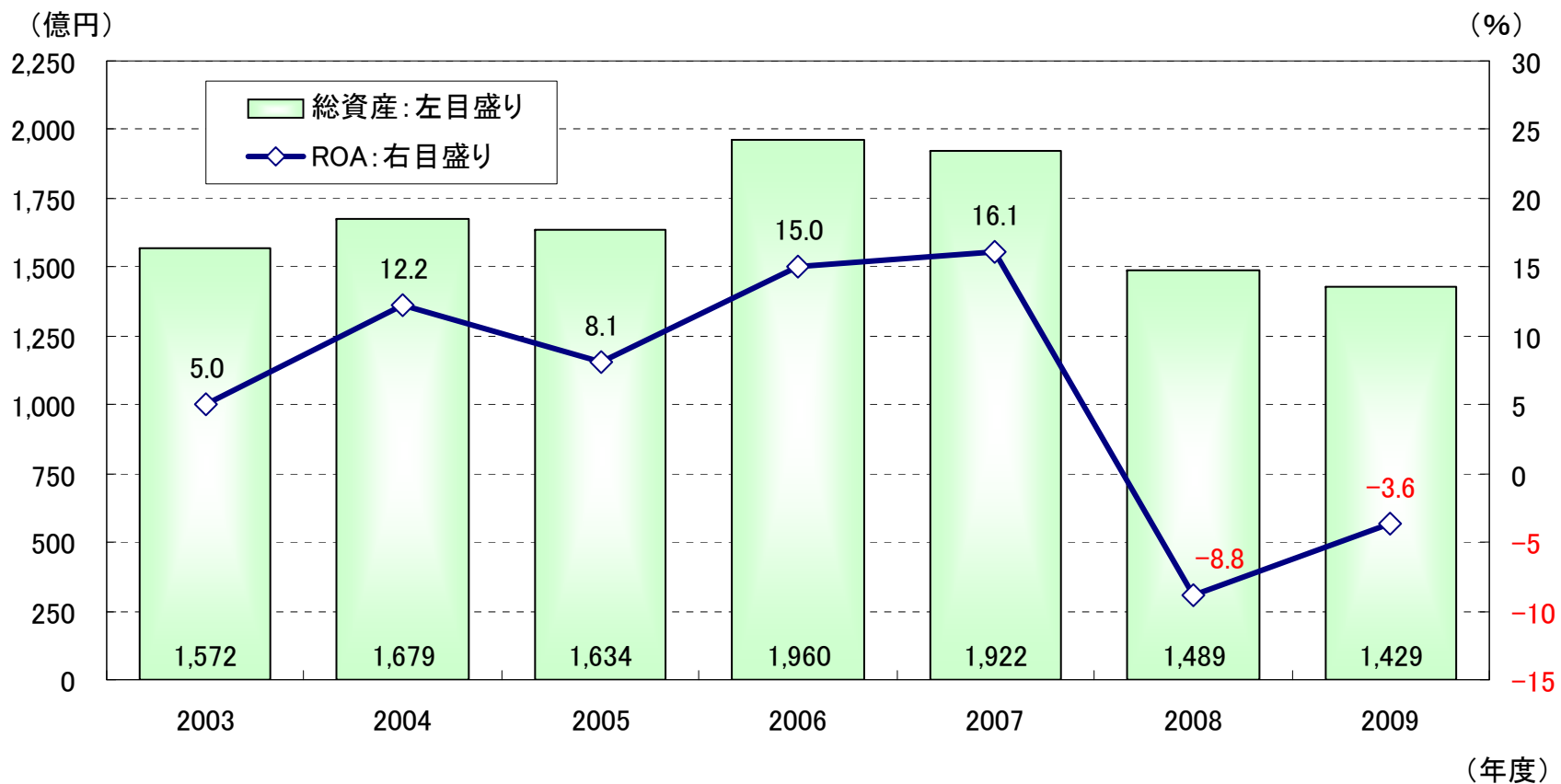
代表取締役社長 杉森 一太

**<参考> 主要データ(連結ベース)**

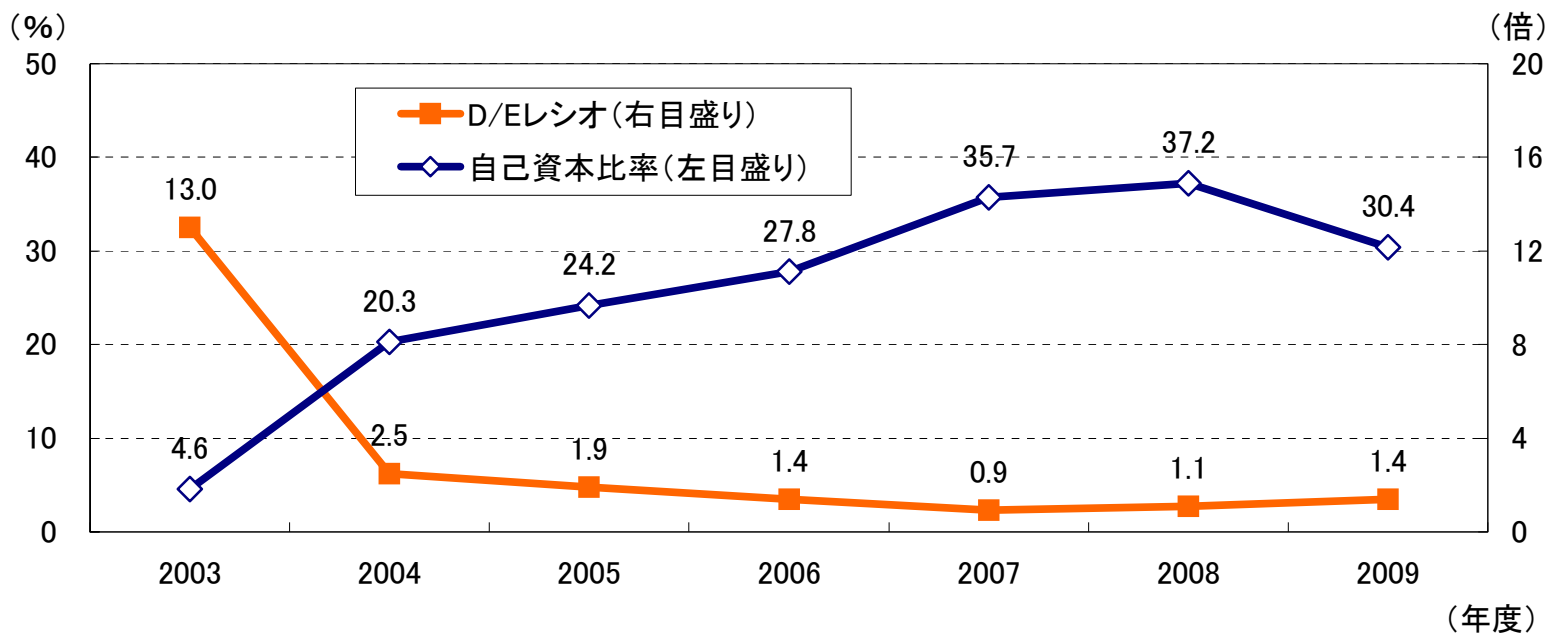
# 売上高・営業利益



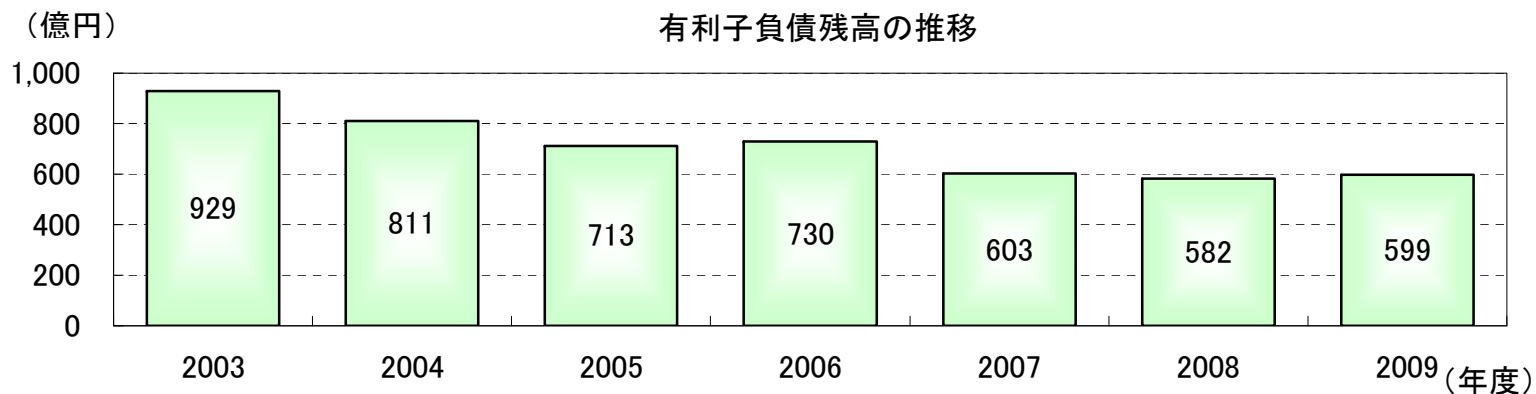
# 総資産額・ROA



# 有利子負債残高と自己資本比率、D/Eレシオ

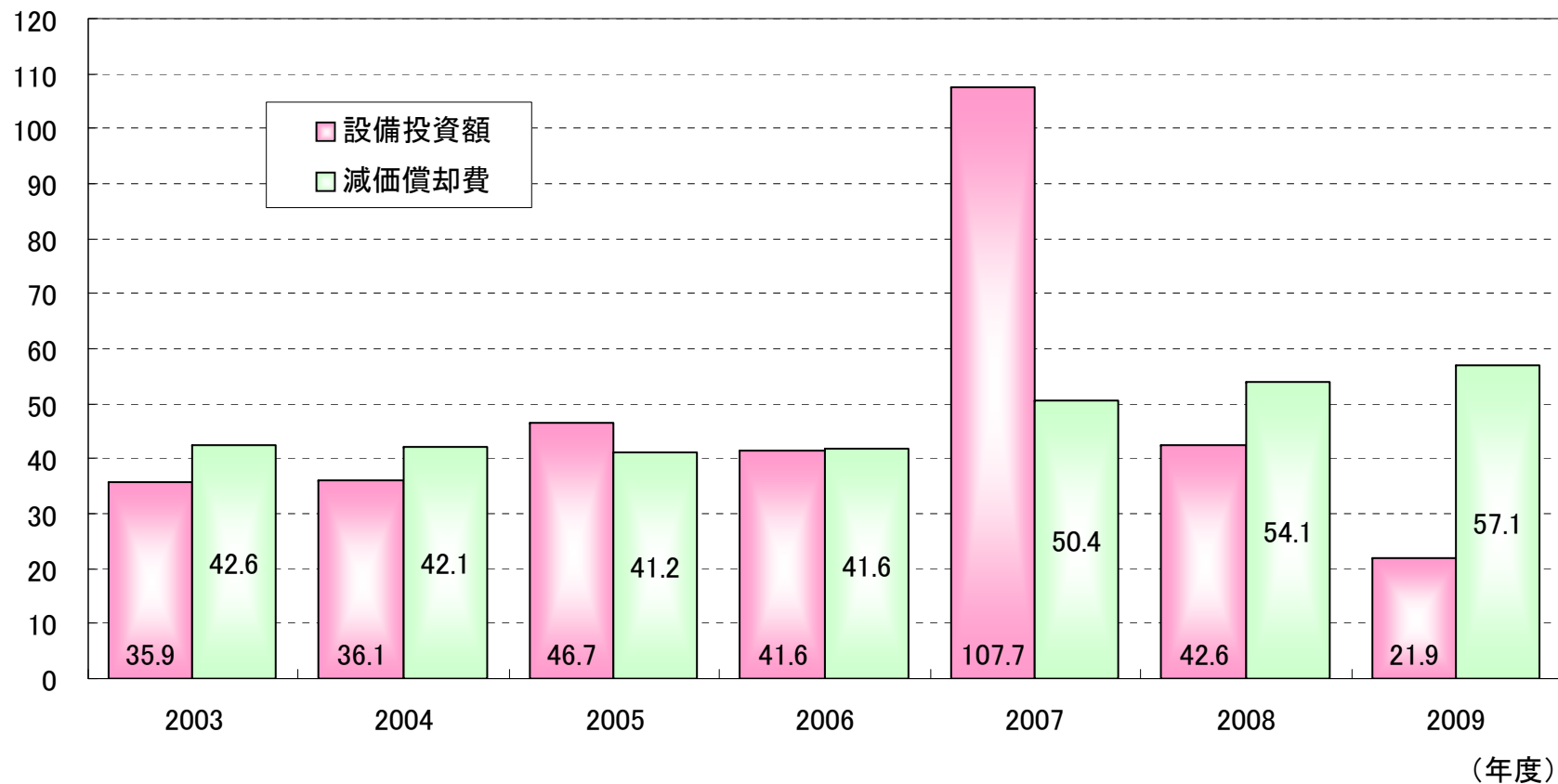


有利子負債残高の推移



# 設備投資(連結ベース)

(億円)





歴史あるステンレスメーカーから新しいステンレス特殊鋼メーカーへ

# 日本冶金工業

本資料のいかなる内容も、弊社株式の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料に掲載された計画や見通し、予測等は、現時点で入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切の責任を負いかねますので、ご承知下さい。

【本件に関するお問い合わせ】

日本冶金工業株式会社 IR事務局

Tel. 03-3273-3613 /

E-MAIL. irjimu@nyk.co.jp